

教科	公民	科目	公共
履修条件 対象生徒	必履修 デザイン科 1学年		
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身につけることを目指す。 ・社会課題に対する見方、考え方はさまざまあり多面的であることを重視し、その複教性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す公共的存在としての能力を養う。 ・身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定し、主体的、対話的な授業を通して生徒が社会参画者であることの自覚を深める。 		
学習方法	<p>[授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、教科書（教育図書）の学習内容について、具体的な理解が深まるように身近な題材を適宜取り上げていく。 ・現代社会に生きる私たちの在り方や生き方についての意識を高めさせていく。 <p>[家庭学習]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着や学力の向上を図るため、時事問題についての新聞記事やニュース番組に接する機会を増やしていく。 <p>[補習・その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補習は特に設定していない。 ・ニュースなどで日々伝えられる世界各地や国内の出来事や動きに興味・関心を持つことを促し、そういったものを教科書の学習内容と関連付けながら時事問題として取り上げていく。 		
学習計画 と ねらい	<p>< 1学期末考査まで ></p> <p>1 第1章 公共の扉</p> <p>(1) 公共と人</p> <p>(2) 公共と倫理</p> <p>(3) 公共の基本原則</p> <p>< 2学期末考査まで ></p> <p>2 第2章 現代社会の諸課題</p> <p>(1) 法</p> <p>(2) 政治</p> <p>(3) 経済</p> <p>< 学年末考査まで ></p> <p>3 第3章 持続可能な社会へ</p> <p>(1) 社会研究の方法</p>	<p>○公共的な空間と人間の関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性などに着目して、社会に参画する自立した主体とは何かを問う。人間は個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに対話を通して互いの立場を理解し高め合う存在であることを理解する。</p> <p>○自立した主体として、よりよい社会の形成に向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して他者と協働して主題を追究したり、議論を行う学習を通して、合意形成や社会参画への理解を深める。</p> <p>○持続可能な地域、国家、国際社会を担う主体として、社会のなかに課題を見出し、これまで学習してきた公共的な見方・考え方ははたらかせ課題解決にむけて協働して取り組むことを狙いとしている。公共の学びが知識の習得、思考力や表現力の獲得にとどまらず、主体として社会に参画する場までつなげていくことを目指す。</p>	
評価規準	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解する。 ・法、政治、経済などに関わるシステムの下で活動するために必要な知識、技能を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・法、政治、経済を関連させ、また具体的な主題を設定し、その主題解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したことを論拠をもって表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。 ・よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。
評価方法	定期考査、授業態度、課題および提出物を総合的に判断して評価します。		